

ASEAN のインド太平洋構想

福田 保（国際社会学部 准教授）

2019年6月にタイ・バンコクで開催された ASEAN 首脳会議の場で、ASEAN は「インド太平洋に関する ASEAN の見解 (ASEAN Outlook on the Indo-Pacific: AOIP)」を採択した。AOIP とは、そしてその狙いは何だろうか。

AOIP の IP (インド太平洋) は、太平洋からインド洋まで広大な海域を含む地域概念であり、近年、その地政学・地経学的戦略的重要性が注目されている。2016年8月にケニア・ナイロビで開催された第6回アフリカ開発会議で安倍晋三総理は「自由で開かれた」インド太平洋の考え方を提唱、翌年11月にはドナルド・トランプ米大統領がベトナム・ダナンで「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」戦略を発表した。日米が FOIP を推進するなか、遅まきながら ASEAN が打ち出したインド太平洋観が AOIP である。

ASEAN が AOIP を採択した理由は、「ドーナツ化の回避」の一言に尽きる。ARF や EAS などのアジア太平洋に現存する主要な地域制度は、ASEAN を中心に据えている。議題設定、会議進行、成果文書立案を主導する ASEAN には、地域制度のリーダー役との自負がある。しかし、中国はアジアを欧州やアフリカに結ぶ「一帯一路」構想を推進する一方、中国を警戒する日米は FOIP を掲げ、豪印との連携を強めている。大国主導の構想が進展し、特に日米豪印の連携の輪が強まれば、そのほぼ中央に位置する ASEAN は埋没しかねない (図参照)。



ASEAN のドーナツ化のイメージ図 Google マップに筆者加筆

このような状況下において採択された5ページの公式文書は、インド太平洋で中心的役割を果たすのは ASEAN であると訴えている。そして同地域を対立ではなく、対話と協調の場とするためには、(大国主導により) 新たなメカニズムを創設するのではなく、既存の ASEAN 主導のそれを強化することであると説く。すなわち、大国間主導権争いを牽制し、インド太平洋においてもリーダーシップをとるのは ASEAN であると大国に釘を刺すこと、これが AOIP の狙いである。

だが、これらは ASEAN が以前から機会があるごとに強調してきた内容であって、AOIP には新たに注目すべき要素は見当たらない。より大きな問題は、具体策が欠けている点である。中心的役割を果たすうえで ASEAN は何を行うのか、既存の地域制度をどのように強化するのか、何ら述べられていない。ASEAN のドーナツ化を防ぐには、その穴を埋めるために自ら行動しなければならない。AOIP 採択後に何をするのか、ASEAN は問われている。